

安曇野 ロケ さんぽ

映画やテレビ、企業広告など、さまざまな作品の撮影が市内で行われています。最近撮られた作品と市のロケ支援の取り組みを紹介します。

安曇追分駅で撮影されたJR東日本「青春18きっぷ」のポスター



自動車メーカー Audi の2022年カレンダー
安曇野高橋節郎記念美術館で撮影

人気児童書「ざんねんないきもの事典」が映画化。オーストラリア・南極・日本（安曇野市）が物語の舞台



N年間20件程度の撮影
HKの連続テレビ小説おひさま（2011年）や水色の時（1975年）、名匠・黒澤明監督の映画「夢」（1990年）など、市内でのテレビ番組や映画の撮影は、地域活性化のきっかけとして、大きな影響を及ぼしました。

市では、信州フィルムコミッションネットワーク（SFN）に加盟し、観光課を中心にロケーション撮影（スタジオ外での撮影）の誘致や支援を行っています。具体的には、制作者の要望やイメージに合う場所を紹介し、現地を案内したり、エキストラ募集、宣伝への協力などを行っています。また、SFNを通じて他地域の応援など広域的な撮影支援にも取り組んでいます。

烏川溪谷緑地や安曇野市役所でもロケが行われた「太陽とボレロ」



安曇野での撮影実績は年間15〜20件程度で、令和元年度はテレビドラマ2件、ドラマ以外の番組19件、映画1件の撮影がありました。令和2年度以降は、新型コロナウイルスの影響により、減少傾向でしたが、今年に入り、ポスターなどの撮影が頻繁に行われ、にぎわいが復調しつつあります。県内ロケに関わる情報は、SFNのHP (<https://www.shinshu-film.net/>) に掲載されていますので、ぜひチェックしてみてください。

ロケが盛んになることで、地域への愛着や知名度が高まることや、スタッフの飲食や宿泊や観光客の増加などの経済効果が期待できます。今後は、ロケ適地の情報を募るなど体制づくりを進め、機会を捉えて、安曇野の魅力を全国に発信します。

ロケ撮影ニュース

映画 「ざんねんないきもの事典 「安曇野」が舞台

7月8日から全国ロードショーとなる「映画ざんねんないきもの事典」。全3話で構成され、日本編の「はちあわせの森」は、安曇野に暮らすノウサギが主人公の物語です。作品中には安曇野の豊かな自然が描かれています。また、作中に使われる相手の音の収録には、穂高北小学校1年生90人が参加し、映画のエンドロールには学校名が掲載されます。市では今後、監修の今泉忠明さんを招いたトークショーを開催する予定です。



安曇野を駆ける主人公のノウサギ

©2022「映画ざんねんないきもの事典」製作委員会 ©TAKAHASHI SHOTEN

書籍・映画の監修者 今泉忠明先生と学ぶ
『映画ざんねんないきもの事典』公開記念
あづみの自然観察会・トークショー開催決定!

7月31日(日) 市内某所
市内小学生親子を中心 無料
詳細は7月1日(金)、市およびSBCホームページにてご案内。お楽しみに!

青春18きっぷ 春ポスター 95歳! レトロな駅舎「安曇追分駅」

全国のJR普通列車などを自由に乗り降りできる「青春18きっぷ」の春のポスターに、大糸線の安曇追分駅の風景が選ばれました。ポスターは、春季の販売期間に合わせて、全国の駅に掲示されました。

旅情を誘うレトロな駅舎は、大正15年(1926年)12月に建設。なんと95歳になります。これまでも、声優・歌手として活躍する和氣あず未さんのプロモーションビデオやさまざまなテレビドラマの撮影地になっています。

現在、安曇追分駅では、これまでの青春18きっぷのポスターを紹介するミニ展示を開催しています。

撮影地となったことを記念して、全国を舞台とした歴代ポスターを今秋まで展示



映画 太陽とボレロ 「安曇野市役所」が弥生市役所に?

6月3日から全国ロードショーされている本作品の監督は、俳優の水谷豊さんです。クラシックのオーケストラが題材で、アマチュア交響楽団のメンバーが繰り広げる人間模様が、時にシリアス、時にユーモラスに描かれています。

映画は架空の地方都市「弥生市」が舞台。安曇野市役所が弥生市役所として使われました。マスコミキヤラクター「やよちゃん」のポスターやステッカーまで作られ、細部まで行き届いた小道具に目を向けてみるのもおすすめです。

劇中で使われた架空のまち「弥生市」のポスター

